別添１

火傷病（かしょうびょう）について

りんごの枝に進展した病斑

りんごの枝に進展した病斑

Erwinia amylovora（火傷病菌）という細菌による病害であり、りんご、なし、マルメロなどの果樹や、サンザシ、コトネアスター、ナナカマドなどの花木類を侵す重要病害である。

本病はもともとアメリカ合衆国東部にあった風土病といわれており、ニューヨーク近郊のハドソン川流域で初めて発見された。その後は北米全体はもとより、ニュージーランド、イギリス、エジプトなど海外に広がった。現在では、ヨーロッパのほぼ全域から西アジアへと分布を広げているが、日本においては未発生である。

火傷病に罹病した植物は、火にあぶられたような症状を示し、それが病名の由来となっている。病原細菌は花器や付傷部から侵入して、花腐れ、枝枯れを起こし、さらに主枝、幹へと広がり、胴枯れ、枯死を起こす。高温、多湿の場合病勢は著しく進み、被害部に細菌粘液を大量に溢出し、これが園地でのまん延の伝染源となる。